

令和8年度開講科目 講義シラバス

理学療法学科  
夜間コース  
3年

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

令和8年度 年間予定

理学療法学科(夜間コース)

	第3学年	第4学年
前期	始業 4月6日(月)	始業 4月6日(月)
	面談 4月6日(月) ~ 随時	講義 4月6日(月) ~ 4月24日(金)
	講義 4月6日(月) ~ 7月17日(金)	6月22日(月) ~ 7月3日(金)
	補講・定期試験期間 7月21日(火) ~ 8月7日(金) 8月10日(月)~14日(金)予備日	臨床実習Ⅲ 4月27日(月) ~ 6月19日(金)
	夏季休業 8月15日(土) ~ 8月31日(月)	臨床実習Ⅳ ※ 7月6日(月) ~ 9月11日(金)
	再試験(対象者のみ) 8月20日(木) ~ 8月28日(金)	
	講義 9月1日(火) ~ 12月11日(金)	関連病院 合同就職説明会 4月18日(土)
後期	補講・定期試験期間 12月14日(月) ~ 12月25日(金) 1月 4日(月) ~ 1月8日(金) 1月12日(火) ~ 15日(金)予備日	学内就職説明会 7月2日(木)
	冬季休業 12月28日(月) ~ 1月3日(日)	講義および国家試験対策 9月14日(月) ~ 2月19日(金)
	再試験期間(対象者のみ) 3月1日(月) ~ 3月5日(金)	第62回 国家試験 2月21日(日)予定
	臨床実習Ⅱ 1月18日(月) ~ 2月26日(金)	
	春季休業 3月15日(月) ~ 3月31日(火)	卒業証書授与式 3月5日(金)

※ 臨床実習Ⅳは学内評価期間を含む。

# カリキュラム

学校法人巨樹の会		小倉リハビリテーション学院		理学療法学科		夜間コース		カリキュラム									
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		4年		時間数	単位数				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人文科学	心理学			30						30	2				
			統計学						30				30	2			
		自然科学	情報処理							30				30	2		
			物理学	30										30	2		
		コミュニケーション学	基礎教養		30									30	2		
			対人関係演習Ⅰ	30										30	2		
		対人関係演習Ⅱ		30								30	2				
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30									30	2			
			解剖学Ⅱ		30									30	2		
		生理学	生理学Ⅰ	30										30	2		
			生理学Ⅱ		30									30	2		
		運動学	運動学Ⅰ	60										60	4		
			運動学Ⅱ		30									30	2		
	運動学演習Ⅰ		30										30	2			
			運動学演習Ⅱ		30								30	2			
	人間発達学	人間発達学			30								30	2			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30										30	2		
			リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30									30	2		
		臨床医学各論	医学概論		30										30	2	
			病理学概論			30									30	2	
			整形外科			30									30	2	
			内科学			30									30	2	
			神経内科学			30								30	2		
			臨床心理学				30							30	2		
			精神医学					30						30	2		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30										30	2			
		リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30										30	2			
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ		30									30	1		
			基礎理学療法学Ⅱ			30									30	1	
			生活機能演習					30							30	1	
	臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ				30								30	2		
		臨床運動学演習Ⅱ						30						30	2		
	理学療法管理学	理学療法管理	理学療法管理学							30				30	2		
	理学療法評価学	理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ		60										60	2	
			基礎評価学演習Ⅱ			60									60	2	
			基礎評価学演習Ⅲ				60								60	2	
			臨床評価学演習Ⅰ			30									30	1	
			臨床評価学演習Ⅱ				30								30	1	
	運動療法学	運動療法学	運動療法学演習				60								60	2	
			物理療法学					30								30	1
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ				30									30	1
			日常生活活動学演習Ⅱ					30								30	1
		義肢装具学	義肢学						30							30	1
			装具学							30						30	1
		理学療法治療学	疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ				60								60	2
				中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ					60							60	2
				運動器疾患の理学療法学Ⅰ					60							60	2
				運動器疾患の理学療法学Ⅱ						60						60	2
	内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ								60						60	2	
	内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ									60					60	2	
	小児疾患の理学療法学						30									30	1
	理学療法学技術演習Ⅰ									60						60	2
	理学療法学技術演習Ⅱ										60					60	2
	理学療法学総合学習Ⅰ												60			60	2
	理学療法学総合学習Ⅱ										60			60	2		
	理学療法学総合学習Ⅲ										60			60	2		
	地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学						30						30	2	
			地域理学療法学演習							30					30	2	
	臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ		45										45	1	
			臨床実習Ⅱ							45					45	1	
			臨床実習Ⅲ									360			360	8	
			臨床実習Ⅳ									450			450	10	
	*基礎分野：講義15～30時間1単位				基礎分野	60	60	30	0	0	60	0	0	0	210	14	
*専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位				専門基礎分野	240	180	150	60	0	0	0	0	0	630	42		
*専門分野：同上				専門分野	0	120	120	330	300	300	30	180	1380	51			
*臨床実習：40～45時間1単位				実習	0	45	0	0	0	45	810	0	900	20			
*専門分野：同上				前期・後期小計	300	405	300	390	300	405	840	180	3120	127			
				前後期合計	705		690		1245		3300						

シラバス

# I . 基礎分野

講義科目	統計学				授業時間数	30
担当講師	増見 伸				単位数	2
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	急性期病院・在宅分野において理学療法士としての実務経験あり		
教育目標	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	オリエンテーション	①統計の必要性 ②4つの尺度 ③研究デザイン				
2	データのばらつき	①分散 ②基準値 ③偏差値				
3	正規分布	①母集団と標本 ②正規分布 ③標準正規分布				
4	割合の検定	①有意水準と仮説検定 ②二項分布の正規近似 ③演習問題				
5	t検定	①演習問題 ②t値（t統計量） ③t分表の見方				
6	演習①	1回から5回までの確認テストまたはレポート				
7	演習①解説	①演習問題の解説 ②グループで復習				
8	カイ2乗分布	①観測度数と期待度数 ②カイ2乗統計量 ③カイ2乗分布表				
9	区間推定	①検定と推定 ②標本平均の分布 ③95%信頼区間				
10	感度と特異度	①クロス集計 ②仮説検定の誤り ③感度と特異度				
11	相関	①共分散 ②相関係数r ③母相関係数の検定				
12	回帰	①回帰直線の求め方 ②回帰曲線を求める公式 ③練習問題				
13	演習②	7回から11回までの確認テストまたはレポート				
14	演習②解説	①演習問題の解説 ②レポート提出				
15	まとめ	①学習の振り返り ②国家試験に向けて				
教科書	書籍名	著者	出版社			
	すぐできる！リハビリテーション統計	山本澄子・谷浩明	南江堂			
参考図書等						
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくリハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。					

講義科目	情報処理		
担当講師	本山 晴子		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	単位数 2
教育目標	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。		
No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	オリエンテーション (情報システムとは)	①情報システムの仕組みを理解する。 ②クラウドのシステムと使い方を理解する。 または、クラウドコンピューティングのシステムと使い方を理解する。	
2	情報セキュリティー (情報モラル、著作権、ネットワークを利用する上での注意点)	①情報セキュリティについて理解する。 ②SNSリテラシーを理解する。	
3	Windowsの基本操作	①OSについて理解できる。 ②ファイル管理操作ができる。	
4	Word（日本語入力システム、文字の入力、特殊な入力方法）	①正確な文字入力ができる。	
5	Word（文章の入力、保存、印刷設定）	①Wordを用いて文章を入力し、印刷の詳細な設定ができる。	
6	Word（編集、表作成、イラスト挿入）	①Wordを用いてビジネス文書を作成できる。	
7	Excel（データ入力、ワークシート編集）	①表計算ソフトの基本的な操作ができる。	
8	Excel（計算式、グラフ）	①表計算ソフトを用いて計算式を自分で組み立て、それを元にグラフを作成することができる。	
9	Excel（グラフ、関数）	①表計算ソフトを用いて関数を使用し、データ分析ができる。 ②グラフの詳細設定ができる。	
10	Excel（関数）	①表計算ソフトを用いて複雑な関数を使用し、データの加工ができる。	
11	Excel（データベース機能）	①表計算ソフトを用いて大量のデータを効率的に管理できる。	
12	PowerPoint（プレゼンテーションとは、プレゼンテーションソフトの基本操作）	①プレゼンテーションについて説明できる。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。	
13	PowerPoint（ビジュアルツールを利用した効果的なプレゼンテーションの作成）	①視覚的に効果的なツールを使用し、スライドを作成することができる。	
14	PowerPoint（発表技術、配布資料）	①プレゼンテーションを行う際のポイント、配布資料について説明できる。	
15	まとめ	①習熟度にあわせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	情報利活用 基本演習	土岐順子	日経BPソフトプレス
	Word 2021 & Excel 2021 & PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応（よくわかる）大型本		FOM出版
参考図書等	医療従事者のための情報リテラシー	著：森由紀 監修：中村健壽	日経BP社
	情報利活用コンピュータリテラシー	山崎紅	日経BPソフトプレス
授業方法	授業はテキストを使用し演習形式で行います。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	欠席するとついてこれなくなる事もありますので欠席しないようにして下さい。また、使わないと覚えられませんので積極的にコンピューターを使用して習得しましょう。		

## Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	生活機能演習				授業時間数	30
担当講師	坪田 和英				単位数	1
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	オリエンテーション ICFにおける生活機能 概要	ICFの構成を確認し、生活機能の構成要素とその関連を理解する。				
2	ICFにおける生活機能 詳細	ICFにおける生活機能の各項目の詳細を理解する				
3	生活機能と環境因子・個人因子 概要	ICFの構成を確認し、生活機能と環境因子・個人因子の関連を理解する				
4	模擬症例紹介	模擬症例（中枢神経系障害・運動器系障害患者）を参照し、レポート作成の方法を理解する				
5	運動器系障害患者の生活機能① （生活機能低下）	運動器系障害患者における生活機能の低下を想定する				
6	運動器系障害患者の生活機能② （評価）	生活機能の低下に対する評価項目を列挙する				
7	運動器系障害患者の生活機能③ （理学療法）	生活機能の低下に対する理学療法を立案する				
8	運動器系障害患者の生活機能④ （予防）	生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える				
9	運動器系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）	グループで発表を行い、聴講し、理解を深める				
10	中枢神経系障害患者の生活機能① （生活機能低下）	中枢神経系障害患者における生活機能の低下を想定する				
11	中枢神経系障害患者の生活機能② （評価）	生活機能の低下に対する評価項目を列挙する				
12	中枢神経系障害患者の生活機能③ （理学療法）	生活機能の低下に対する理学療法を立案する				
13	中枢神経系障害患者の生活機能④ （予防）	生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える				
14	中枢神経系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）	グループで発表を行い、聴講し、理解を深める				
15	ICFにおける生活機能	症例を通して学んだ生活機能の理解を確認する				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	特になし					
参考 図書等	ICFの理解と活用		上田 敏		萌文社	
	整形外科ビジュアルリハビリテーション		稲川 利光		学研メディカル秀潤社	
	病気が見える7（脳・神経）		医療情報科学研究所		Medic Media	
授業 方法	グループワーク及び調べ学習、レポート作成 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の 注意	グループワークを中心にレポートを作成します。個々の調べ学習をグループで集約し、知識を深めましょう。					

講義科目	臨床運動学演習Ⅱ					
担当講師	宮崎 祐二			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	異常姿勢・姿勢分析	①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。				
2	運動器系疾患の歩行分析①	①運動器系疾患（1）の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患（1）の歩行を観察し、模倣する。				
3	運動器系疾患の歩行分析②	①運動器系疾患（1）の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。				
4	運動器系疾患の歩行分析③	①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。 ②運動器系疾患（2）の歩行の特徴を考える				
5	運動器系疾患の歩行分析④	①運動器系疾患（2）の歩行を観察し、模倣する。 ②運動器系疾患（2）の歩行観察内容を記載する。				
6	運動器系疾患の歩行分析⑤	①観察した異常歩行の原因について考察し記載する。 ②観察した運動器系疾患の歩行について説明する。				
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①	①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。				
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②	①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。				
9	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。				
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①	①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の立ち上がり動作を模倣する。				
11	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②	①観察した立ち上がり動作について説明する。				
12	中枢神経系疾患の歩行分析①	①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。				
13	中枢神経系疾患の歩行分析②	①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。				
14	中枢神経系疾患の歩行分析③	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。				
15	基本動作・歩行振り返り	①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。				
教科書	書籍名	著者	出版社			
	動作分析 臨床活用講座	石井慎一郎	メジカルビュー社			
	観察による歩行分析	月城慶一,他（訳）	医学書院			
参考図書等						
授業方法	講義と演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。					

講義科目	義肢学				授業時間数	30
担当講師	宮崎 祐二				単位数	1
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	切断と義肢の基礎知識①	①切断・離断とは ②義肢 ③骨格・殻構造 ④切断高位 ⑤上肢下肢の切断原因・発生率 ⑥切断術と処理について理解する				
2	切断と義肢の基礎知識②	①切断術後のリハビリテーションの流れ ②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義について理解する				
3	大腿切断①	①大腿義足ソケットの種類と特徴 ②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御について理解する				
4	大腿切断②	①膝離断の特徴・ソケット ②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴 ④大腿義足のベンチアライメントについて理解する				
5	大腿切断③・膝関節離断	①大腿義足のスタティック・ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行 ③膝離断用義足のアライメントについて理解する				
6	大腿切断の異常歩行	①異常姿勢・異常歩行について理解する				
7	下腿切断	①下腿義足ソケットの種類と特徴 ②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行について理解する				
8	サイム切断	①サイム義足ソケットの種類と特徴 ②サイム義足のアライメントについて理解する				
9	片側骨盤切断・股関節離断①	①股義足の種類と特徴 ②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴について理解する				
10	股関節離断②・足部切断	①股義足のアライメント ②足部切断の種類 ③足部部分義足の種類・特徴について理解する				
11	下肢切断のリハビリテーション	①下肢切断に対する評価項目と意義 ②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点について理解する				
12	断端の合併症	①幻肢・幻肢痛・神経腫 ②幻肢・幻肢痛・神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮 ④拘縮予防の理学療法について理解する				
13	下肢切断のリハビリテーション	①義足装着理学療法項目と意義 ②歩行練習の流れ ③荷重練習の重要性 ④応用歩行 ⑤起居動作練習について理解する				
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション	①義手の機能的分類 ②手先具の種類と特徴 ③上肢切断に対する評価項目と意義 ④上肢切断に対する理学療法と意義について理解する				
15	まとめ	①大腿切断の異常姿勢・異常歩行 ②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断についてについて理解する				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	切断と義肢		澤村 誠志		医歯薬出版	
参考図書等	15レクチャーシリーズ 義肢学		石川 朗		中山書店	
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	自分がかもし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということについていつも想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。					

講義科目	装具学				授業時間数	30
担当講師	林 輝真				単位数	1
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	装具学総論		装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れについて理解する。 保険制度について理解する。			
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)		下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。			
3	短下肢装具(2)		金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類・機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患・症状)について理解する。			
4	短下肢装具(3)		プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。			
5	長下肢装具(1)		長下肢装具の基本的構造要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類・機能について理解する。			
6	長下肢装具(2) 免荷装具		長下肢装具の使用目的・効果について理解する。 PTB免荷装具の構造・機能・適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造・機能・適応について理解する。			
7	股装具 膝装具		股装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。			
8	下肢装具のチェックアウト		下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。			
9	靴型装具と足底装具(1)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
10	靴型装具と足底装具(2)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
11	対麻痺用装具・ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具		小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。			
12	体幹装具、側彎症装具(1)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
13	体幹装具、側彎症装具(2)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
14	上肢装具(1)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
15	上肢装具(2)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	装具学		飛松好子、高嶋孝倫(編)		医歯薬出版	
参考図書等	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学		石川朗、佐竹将宏		中山書店	
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できるようになる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。					

講義科目	中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ					
担当講師	古賀 孝幸			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	急性期・回復期・訪問リハ・通所介護で理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)	No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について	16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。	
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断 (脳葉の区分と溝・病巣) について	17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。	18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。	19	運動失調症の病態について①	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。	
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。	20	運動失調症の病態について②	運動失調の症状の特徴について理解する (片麻痺との違い)。	
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。	21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する。	
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。	22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。	
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。	23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。	
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。	24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。	25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。	
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷 (頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷) の病態について理解する。	26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。	27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。	28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。	
14	パーキンソン病の病態について	パーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。	29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。	
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。 (Hoehn-Yahrの重症度分類)	30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる	
教科書	書籍名		著者		出版社	
	ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション 病気が見える7 (脳・神経)		潮見 泰藏		羊土社	
参考 図書等	高次脳機能障害学		医療情報科学研究所		Medic Media	
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		石合 純夫		医歯薬出版	
	PT・OTのための画像のみかた		川平和美		医学書院	
	日常生活活動 (ADL)第2版		山下 敏彦 監修 千住 秀明		金原出版 神陵文庫	
授業 方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。					

講義科目	運動器疾患の理学療法学 I					
担当講師	増見 伸			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	整形外科領域病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)	No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	骨関節、外傷総論	骨折・脱臼・捻挫・靭帯損傷・創傷及び褥瘡について理解する	16	肩関節疾患②	変形性肩関節症の病態、治療、理学療法を理解する。	
2	高齢者と小児の骨折	①高齢者の身体特性、骨粗鬆症および骨折の特徴を理解する ②サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイルについて理解する ③小児の身体特性と骨折の特徴を理解する	17	スポーツ傷害①	上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
3	下肢の骨折①	股関節脱臼、骨盤骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	18	スポーツ傷害②	上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
4	下肢の骨折②	大腿骨近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	19	スポーツ傷害③	下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
5	下肢の骨折③	大腿骨骨幹部骨折、大腿骨遠位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	20	スポーツ傷害④	下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
6	下肢の骨折④	膝蓋骨骨折、脛骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	21	スポーツ傷害⑤	その他スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
7	下肢の骨折⑤	足関節骨折、踵骨骨折、距骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	22	スポーツ傷害⑥	上肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
8	下肢の骨折まとめ	各下肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	23	スポーツ傷害⑦	下肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
9	上肢の骨折①	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	24	スポーツ傷害まとめ	各スポーツ傷害の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
10	上肢の骨折②	上腕骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	25	変形性関節症 (膝関節①)	変形性膝関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
11	上肢の骨折③	肘関節脱臼、前腕近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	26	変形性関節症 (膝関節②)	人工膝関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
12	上肢の骨折④	前腕骨幹部骨折、橈骨遠位端骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	27	変形性関節症 (股関節①)	変形性股関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
13	上肢の骨折⑤	手の骨折の病態、治療、理学療法を理解する。	28	変形性関節症 (股関節②)	人工股関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
14	上肢の骨折まとめ	各上肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	29	変形性関節症まとめ	下肢変形性関節症の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
15	肩関節疾患①	肩関節疾患の病態、治療、理学療法を理解する。	30	骨端症	骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。	
教科書	書籍名		著者		出版社	
	整形外科ビジュアルリハビリテーション		稲川 利光		学研メディカル秀潤社	
参考図書等	PT・OTのための画像のみかた		山下 敏彦 監修		金原出版	
	標準整形外科学		松野丈夫		医学書院	
	運動器障害理学療法学テキスト		細田多穂		南江堂	
授業方法	講義および実技を用いたグループワークを行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。					

講義科目	運動器疾患の理学療法学Ⅱ					
担当講師	岡部 貴文 林 輝真			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)	No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	疼痛疾患	①疼痛のメカニズムおよび急性痛・慢性痛・がん性疼痛を理解する。②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する。	16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法プログラムを理解する	
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する	17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する	
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する	18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する	
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する	19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する	
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する	20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する	
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する	21	脊髄損傷③	①合併症を理解する	
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。	22	脊髄損傷④	①評価 (Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA) を理解する	
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する (橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺)	23	脊髄損傷⑤	①頭髄損傷について理解する	
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する (坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺、脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺)	24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する	
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法プログラムを理解する	25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する	
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する	26	脊髄損傷⑧	①頭髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する	27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する	28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する	
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法プログラムを理解する	29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する	
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する	30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社	
	整形外科ビジュアルリハビリテーション 脊髄損傷の理学療法		稲川 利光 武田 功		学研メディカル秀潤社 医歯薬出版	
参考図書等	運動器障害理学療法学テキスト		細田多徳		南江堂	
	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 標準整形外科学		田中宏太佳・園田茂 内田淳正		医学書院 医学書院	
授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。					

講義科目	内部障害系疾患の理学療法学 I						
担当講師	岡部 貴文			授業時間数	60		
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2	
教育目標	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。						
No	講義計画	行動目標 (学習目標)		No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	内部障害の理学療法とは	①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。		16	虚血性心疾患の病態、診断、治療	①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。	
2	代謝と栄養	①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。		17	心不全の病態、診断、治療	①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。	
3	メタボリックシンドロームの理学療法 ①	①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。		18	心臓リハビリテーション総論	①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。	
4	メタボリックシンドロームの理学療法 ②	②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。		19	循環器疾患の理学療法評価 ①	①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。	
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療	①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。		20	循環器疾患の理学療法評価 ②	②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。	
6	糖尿病の合併症と治療	①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。		21	循環器疾患の理学療法評価 ③	④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。	
7	糖尿病の理学療法 ①	①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。		22	循環器疾患の理学療法 ①	①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。	
8	糖尿病の理学療法 ②	③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。		23	循環器疾患の理学療法 ②	②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。	
9	循環器系の解剖学・生理学	①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。		24	循環器疾患の理学療法 ③	③不良反応が出現した際に適切な処置ができる。	
10	運動耐容能とその評価 ①	①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。		25	大動脈疾患の病態と理学療法	①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。	
11	運動耐容能とその評価 ②	③運動耐容能を評価する。 ④運動処方の実際を理解する。		26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法	①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。	
12	心電図の診かた ①	①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。		27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法	①末梢動脈・静脈・リンパ系の代表的疾患(ASO・DVT・リンパ浮腫：子宮がん・乳がん)の病態と理学療法を理解する。	
13	心電図の診かた ②	④モニター心電図を理解する。 ⑤ホルター心電図を理解する。 ⑥心電図と循環との関係を知る。		28	腎疾患の病態、検査	①腎疾患の病態、治療を理解する。	
14	不整脈の診かた ①	①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。		29	腎疾患の治療、理学療法	②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。	
15	不整脈の診かた ②	①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。		30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ	①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がいの理学療法をまとめる。	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝		石川 朗		中山書店		
内部障害理学療法テキスト		細田 多穂		南江堂			
参考図書等	病気が見える 循環器疾患		岡庭 豊		MEDIC MEDIA		
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環		高橋 仁美		中山書店		
	心電図のABC		五島 雄一郎		日本医師会		
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。						

講義科目		内部系障害の理学療法学Ⅱ				
担当講師		川崎 亮佑			授業時間数	60
開講年次	夜間コース	理学療法学 3年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)		No	講義計画	行動目標 (学習目標)
1	呼吸理学療法総論	運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。		16	呼吸器疾患の理学療法基本手技④	徒手的な呼吸介助手技の実施を経験する(パニックコントロールを含む)。
2	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。		17	酸素療法と呼吸理学療法	酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。
3	呼吸器系の運動学	呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。		18	人工呼吸療法と呼吸理学療法	人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。
4	呼吸器系の生理学	呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。		19	急性・慢性呼吸不全の理学療法	急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、胸腹部外科術後(肺・消化器がん等)の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。
5	動脈血液ガス検査	動脈血ガスの目的、意義、基準値、動脈血酸素化能、換気能の指標を理解する。		20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法	慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。		21	吸引の概念と理論	吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査	代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。		22	吸引演習	吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。
8	呼吸器疾患の理学療法評価①	肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。		23	呼吸器疾患の解釈と統合①	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
9	呼吸器疾患の理学療法評価②	医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。		24	呼吸器疾患の解釈と統合②	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
10	呼吸器疾患の理学療法評価③	運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。		25	呼吸器疾患の解釈と統合③	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
11	呼吸器系の運動生理学①	運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。		26	呼吸器疾患の解釈と統合④	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。
12	呼吸器系の運動生理学②	運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。		27	呼吸器疾患の解釈と統合⑤	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技①	コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。		28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ	悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技②	運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。		29	悪性腫瘍の治療(緩和ケア含む)と理学療法	手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技③	呼吸介助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。		30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ	呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸		玉木 彰		中山書店	
内部障害理学療法テキスト		細田 多穂		南江堂		
参考図書等	標準理学療法学 内部障害理学療法学		吉尾 雅春、高橋 哲也		医学書院	
	動画でわかる 呼吸リハビリテーション		高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信		中山書店	
	リハビリテーションビジュアルブック 第2版		落合慈之、稲川利光		学研	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。					

講義科目	理学療法学技術演習 I					
担当講師	波多野 浩子			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）	No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。	16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
2	疾患理解 1	大腿骨頸部骨折の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。	17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。	18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。	19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。	20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。	
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
11	評価項目の選択 1 演習	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。	26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。	27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。	
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。	
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。	30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
教科書	書籍名		著者			
参考図書等						
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点		
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目	理学療法学技術演習Ⅱ					
担当講師	増見 伸 波多野 浩子			授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	整形外科領域病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)	No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。	16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
2	疾患理解 1	脳血管疾患の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。	17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。	18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。	19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。	20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。	
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
11	評価項目の選択 1 演習	脳血管疾患の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。	26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。	27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。	
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。	
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。	30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
参考図書等						
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点		
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目	生活環境学				授業時間数	30
担当講師	坪田 和英				単位数	2
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	生活環境学とは	ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。				
2	法的・制度的環境	社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。				
3	関連制度	ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。				
4	生活とROM、日常生活上の注意点	①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。				
5	住環境整備の流れ、対策について	住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。				
6	住環境整備の流れ、対策について	段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。				
7	部屋別アプローチ①	アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。				
8	部屋別アプローチ②	脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。				
9	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
10	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
11	介護保険と住環境整備	介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。				
12	障害別住宅改修について	①脳卒中患者の住環境整備について ②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について				
13	事例検討①	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。				
14	事例検討②	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。				
15	まとめ	まとめ				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキストX 生活環境論		千住 秀明 監修		神陵文庫	
参考図書等	OT・PTのための住環境整備論 第3版		野村 歡 監修		三輪書店	
	南江堂 生活環境学テキスト		細田多穂 監修		南江堂	
授業方法	講義、演習、グループワークを実施。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。					

講義科目	地域理学療法学演習					
担当講師	宗野 亮			授業時間数	30	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	1. 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 3. 地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。				
2	地域理学療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネージメントの重要性を理解する。				
3	地域理学療法の関連法規 ① 医療保険制度	①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。				
4	地域理学療法の関連法規 ② 障害者総合支援法	①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。				
5	地域理学療法の関連法規 ③ 介護保険制度	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。				
6	地域理学療法の実際① 入所・通所施設における理学療法	①入所施設における理学療法について説明できる。 ②通所施設における理学療法について説明できる。				
7	地域理学療法の実際② 訪問における理学療法	①訪問における理学療法について説明できる。 ②福祉用具および住宅改修の活用方法を説明できる。				
8	地域理学療法の実際③ 地域包括ケアにおける理学療法	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法士の役割を知る。				
9	地域理学療法の実際④ 介護予防における理学療法	①NCD(認知症)予防、転倒予防の実際を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。				
10	健康維持・増進における理学療法 学校保健および特別支援教育における理学療法	①健康維持・増進における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。②学校保健および特別支援教育における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。				
11	スポーツ活動支援における理学療法	①スポーツ理学療法の概要と考え方について理解できる。 ②スポーツ活動支援における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。 ③障がい者スポーツ支援の概要と考え方について理解できる。 ④障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について理解できる。				
12	緩和ケア・終末期医療における理学療法	①緩和ケア・終末期医療における理学療法士の役割について理解できる。 ②緩和ケア・終末期医療における理学療法について理解できる。				
13	災害時の理学療法 国際支援における理学療法 産業理学療法	①大規模災害時における活動支援の概要および理学療法士の役割について理解できる。 ②国際支援における理学療法士の役割および関わる基盤について理解できる。 ③産業理学療法における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。				
14	事例検討	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的方法を理解する。				
15	地域で働く理学療法士に必要な資質（まとめ）	①他職種連携の重要性を知る。 ②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。 ④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。				
教科書	書籍名		著者	出版社		
	地域リハビリテーション学		重森 健太 編	羊土社		
参考図書等	地域リハビリテーション論Ver.7		太田 仁史 編	三輪書店		
	地域リハビリテーション学テキスト 改定第3版		備酒伸彦 他編	南江堂		
	予防と産業の理学療法		樋口由美 他編	南江堂		
授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験（60%） 発表、レポート（40%）			
履修上の注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。					

講義科目	臨床実習Ⅱ（地域実習）				授業時間数	45
担当講師	波多野 浩子					
開講年次	夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ② 実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③ 学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④ 実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。					
講義計画（講義内容を含む）						
<p>【地域実習の概要】</p> <p>地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成すること、及び生活期で実施されるリハビリテーション（主に訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション）の業務に関わりながら、それらの一部を体験・経験することを目的に地域実習を行う。地域実習では、1年次から2年次後期までに学習した、理学療法・作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識を基に、実習施設において実習指導者の指導・監督の下、理学療法・作業療法業務の見学や一部の業務について補助的に関わることを体験する。この体験を通して、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムにおける理学療法士・作業療法士の責任と自覚を培う。</p> <p>教育目標①「地域包括ケアシステムにおける施設の役割を理解し説明できる。」に対する行動目標          （認知領域）地域包括ケアシステムが構築された背景を説明できる。          （認知領域）地域包括ケアシステムの目的を説明できる。          （認知領域）地域包括ケアシステムにおける通所又は訪問リハビリテーションの役割を説明できる。</p> <p>教育目標②「実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。」に対する行動目標          （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している理学療法士・作業療法士の役割を説明できる。          （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している他専門職の役割を説明できる。</p> <p>教育目標③「学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。」に対する行動目標          （情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。          （情意領域）提出物を期限内に提出することができる。          （情意領域）学校および施設の規則やスケジュールに従って行動することができる。          （情意領域）実習指導者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。          （情意領域）他専門職と関わり、良好な関係を構築・維持できる。          （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、感染対策を意識した行動がとれる。</p> <p>教育目標④「実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。」に対する行動目標          （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、対象者に対し相応しい態度や対応がとれる。          （情意領域）対象者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。          （精神運動領域）対象者の一般的情報をカルテ等から収集し、問題点や目標について実習指導者へ考えを述べるができる。          （精神運動領域）学内で学んだ知識・技術を活かし、実習指導者の管理下のもと一部の業務が補助できる。</p>						
教科書	書籍名		著者		出版社	
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ 第3版		鶴見隆正 編集		医学書院	
授業方法	学内実習及び施設実習		成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価		
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。					